

市立保育園等運営対策特別委員会 委員長報告（2011/02/09）

市立保育園等運営対策特別委員会の報告をさせていただきます。

当委員会は、付託を受けております「市立保育園等運営についての今後の対応について」を審査するため、閉会中の2月9日午前9時30分から、説明のため市長、健康福祉部長、幼児課長・参事、関係職員の出席を求める中で開催をいたしました。

委員会では、まず、現場視察として、「栗東市地域子育て包括支援センター（大宝東児童館）」を訪問し、包括支援体制の進捗、施設の運営状況・現状について説明を受けました。

その後、資料に基づき当局より、「栗東市保育サービスにかかる第三者評価について」、「栗東市就学前保育における民間活力活用の基本方針」並びに「同基本計画」に基づく取り組みと成果、その後の対策についての説明を受けました。

主な質疑として、

『栗東市には、各学区に児童館があり大変恵まれているが、近隣市には1館もないところもある。そういう所と比べ、子育て事業の取り組み方や費用対効果の視点での評価も必要ではないか。』

との質疑に対して、

『滋賀県内に児童館は46箇所あり、うち栗東市には9箇所、率にすると約20%の設置率である。大津市7、草津市1、守山市4、野洲

市2という状況の中で、当初の財政再構築プログラムで各中学校区に統廃合するとの提案もあったが、最終目標の経費を削減する中で、今まで以上の子育て支援をとがんばってきた。今後も今ある事業、市民の方が求める事業を厳選する中でより良い支援をしていきたい。』

との答弁がありました。また、

『センターだよりの各戸配布を廃止して、子どもの健診時などに直接配りにいかれていることは大変良いことであり、今後も続けていってほしい。また、予算や人員削減がある中でのスタートではあったが、次年度も今の状態のままで充実させてほしいと思うが。』

との質疑に対して、

『今年が再編成1年目であったが、良いスタートが切れた。様々な事業、現場の声や市民の声など聞きながら、限られた資源の中でがんばっていききたい。』

との答弁がありました。また、

『核家族化という社会情勢の影響が大きいと思うが、最近の若いお母さん達は、子どもたちを連れて近くの施設に行くという人と、近所付き合いが嫌だから離れた施設まで連れて行くという人がいると他市で聞いた。行政は、ただ利用者が増えたからいいですよではなく、根本から人を育てるという取り組み、「親育て」の手助けをしてほしいと願うが。』

との質疑に対して、

『遊び場所の提供だけでなく、子育て事業の講座として、「親育ち」や「人権研修」なども実施しており、それでカバーできると考えている。』

との答弁がありました。また、

『第三者評価で、民営化になって良い評価に変わっていることは保育

7

を受ける側からすれば非常に良い傾向であるが、その評価を受けて他の公立園では、良い評価を活かしていこう、見習おうという取り組みはしているのか。』

との質疑に対して、

『第三者評価を受け、その結果を公・民合同園長会で報告し、それをもとに公立園長会でも話し合いを行っている。特に保護者の方に分かりやすい、見てもらいやすい情報提供という公立園の弱い部分の底上げをしていけるよう申し合わせた。』

との答弁がありました。また、

『現時点で、54名の待機児童がいるとのことだが、今後どう対応していくのか。』

との質疑に対して、

『毎月の調整の中で、入所可能な施設への案内をしているが、地域的な面や勤務・通勤の都合で断る方も多くあり、待機児童が増える現状にある。古い公立保育園は、3歳児以上を中心に考え建築してきたが、近年、待機児童の多い未満児向けにトイレを改修するなどをして、その解消にも努めている。』

との答弁がありました。

以上、本特別委員会は平成19年12月に設置し、これまで11回におよぶ審査を実施してきました。

公立園から法人立園に移行したときの運営方針の違いによる子供たちへの影響や、保護者への十分な説明、メリット・デメリットなどの問題・課題を指摘し、議論を行う中、まずは、保護者への徹底した説明会の実

施が優先されたことと、民営化のみの議論だけではなく、栗東市の保育園全体の運営のあり方についての議論を踏まえたものとなるよう審査を進めました。

以降、「パブリックコメントの実施」、「資料提供」、「各園長・主任に対して、基本方針（案）、計画（案）について徹底した周知・説明」、「各園・保護者への説明会の開催」などを経て、平成22年4月公立保育園の民営化に至りました。

また、この保育園民営化と並行して、様々な問題を審議してまいりました。

「幼稚園3年保育の見直しについて」、「保育園保育料の改定について」、「児童館の再編成について」、「就学前保育における民間活力活用にかかる事業等の経過報告（第三者評価結果）について」、「乳幼児保育基準年間指導計画の見直しについて」、「次世代育成支援行動計画の策定について」、さらに、その他で「学童保育所の分離・分割について」など幅広く審査してきました。

この間、最重点を置いて取り組んできました「市立保育園の民営化に関する審査」も、平成22年度に民営化され、一年が過ぎようとしています。

その中で、2カ年にわたる大宝保育園の第三者評価の比較結果が出され、良好な評価の中での運営がなされていることや、また、児童館の再編成では、地域子育て支援センターを中心に、児童館運営も一定の軌道に乗った運営がなされていることを確認しました。

本市における就学前保育にかかる諸施策・諸課題は、明日の栗東市を担う「親と子」と、そして「栗東市」の大きな問題として重く受け止め、

今日まで、この特別委員会において、様々な指摘や意見があったことを踏まえ、今後においてもしっかり取り組んでいっていただくことを申し添え、採決の結果、全員一致で終結すべきものと決しました。

以上、これをもちまして「市立保育園等運営対策特別委員会」の最終報告とさせていただきます。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。